

アフリカ豚熱防疫体制構築に 向けた防疫演習の概要

沖縄県
農林水産部畜産課

沖縄県の野生いのしし

2

主な生息域

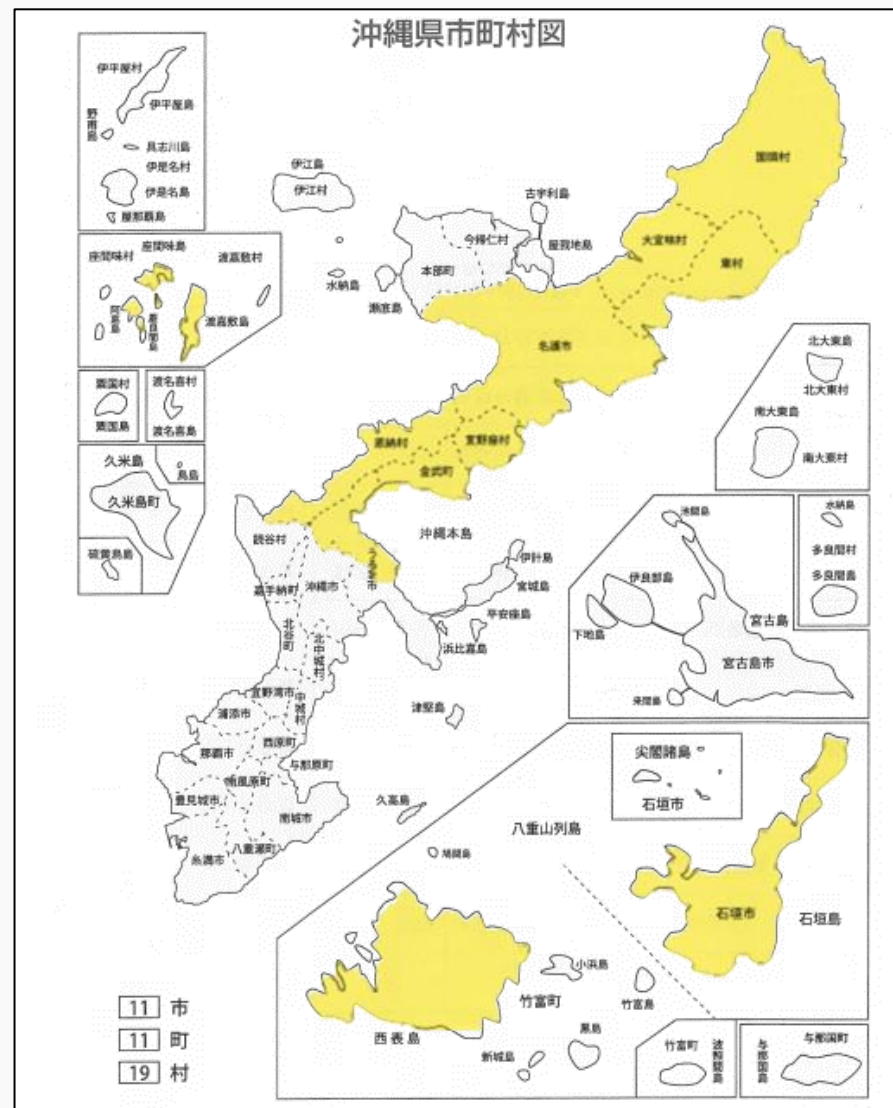
沖縄本島北部
八重山諸島

在来種

リュウキュウイノシシ
※成雄で体重60kg程度

豚熱浸潤状況

R2年農場で発生も、
野生いのししでの豚熱は未確認



- ・ 野生いのししにおけるASFの防疫対応は多岐にわたり、家保単独での対応は困難
- ・ これまで県内いのししでは豚熱の発生もなく、防疫対応の理解や関係機関との連携は不十分



**基本的なことから確認し、共有するため
3つの防疫演習を実施**

1

RC演習

2

実地演習

3

机上演習

• 想定

県内の野生いのししでASFが確認され、積極的捜索により死体を発見したと想定

• 内容

①消毒ポイントの設置

②現地拠点の設置

③死体処理：ダミー死体を用いた搬出処理

原則

農研機構の
協力・指導の下

野生いのしし死体を用いた消毒処理

• 参集範囲

国、県、市町村、猟友会、森林組合など 48名



• 野生いのししの確保

市役所を通じて、有害捕獲個体の譲渡を捕獲者に依頼

検査で陰性を確認し、密閉容器にて冷凍保管

• 演習地の確保

死体の消毒処理を含めた演習ができる森林の提供を、県林務課に依頼

- 1年程度死体を埋めておける
- 野生いのししの生息地域である
- 参加者の見学スペース、駐車スペースが確保できる…



体長50cm、体重35kgのメス

実地演習 | ①消毒ポイントの設置

6



無人の消毒ポイントとして、
陽性確認地点周辺の登山道
入口などに設置を想定

消毒手順等を
説明しながら実演



実地演習 | ②現地拠点の設置

7



資材の準備や防護服等の着脱、作業後の消毒を行う一時的な防疫拠点として、登山道入口への設置を想定



必要資材を確認



防護服を着用して移動

- ダミー死体を用いた搬出処理
- 野生いのしし死体を用いた消毒処理

共通工程

- 作業拠点の設置と防護服の着用
- 発見地点と周辺の消毒
- 死体観察と検体採取
- 撤収作業



実地演習 | ③死体処理（共通工程）

9



- (1) 作業拠点の設置と防護服の着用
- (2) 発見地点と周辺の消毒
- (3) 死体観察と検体採取

実地演習 | ③死体処理（搬出処理の場合） 10



(4) 厚手ビニール袋で死体を梱包

(5) 袋の上から消毒

(6) 手指、長靴などを消毒

実地演習 | ③死体処理（搬出処理の場合）

11



(7) ソリに袋を固定

(8) 防護服を替え、作業
拠点を撤収

(9) 死体をソリで現地拠点
まで搬出

実地演習 | ③死体処理（搬出処理の場合）¹²

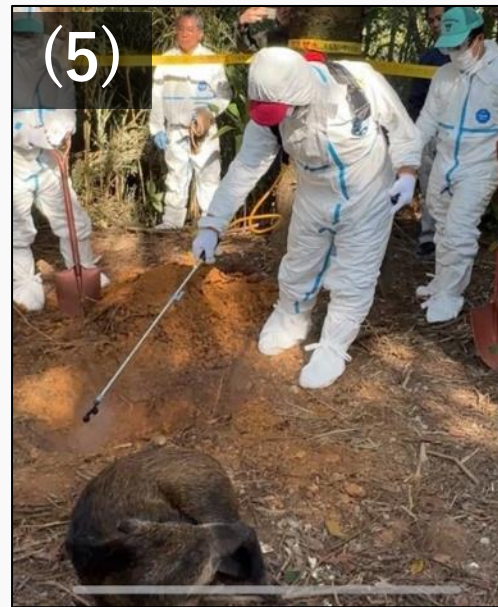


(10) 最後尾から消毒しながら
現地拠点まで移動

(11) 現地拠点でソリごと
車両に積載

(12) 防護服の脱衣、消毒、
撤収作業

実地演習 | ③死体処理（消毒処理の場合） 13



(1)～(3)共通工程

(4)死体が入るくぼみを掘る

(5)くぼみに消毒薬を散布

(6)生分解性シートを敷設、
死体を入れる

実地演習 | ③死体処理（消毒処理の場合） 14



- (7)死体に消毒薬を散布
- (8)シートを三つ折りにし、
両端を縛る
- (9)掘った土の一部を被せる

実地演習 | ③死体処理（消毒処理の場合） 15



- (10) 木の枝で間隙を作りながら金網を被せ、ペグ留め
- (11) 消毒薬を散布し、土をさらに被せる
- (12) 搬出処理と同じ撤収作業



- ・ 防疫員と一般作業者の衛生に対する意識・知識には当然差がある
- ・ 無人消毒ポイントでも、入林者に適切に消毒してもらえるような資料が必要

▶ **写真等を使い、要点を見える化**



- ・ 実際に現地で作業し、未記載の工程や要・不要な資材が明らかに
- ・ 12月中旬実施の演習時でも、フル装備での移動や作業は暑かった

▶ **手順書や資材を洗練化
状況に合わせて柔軟に装備変更**

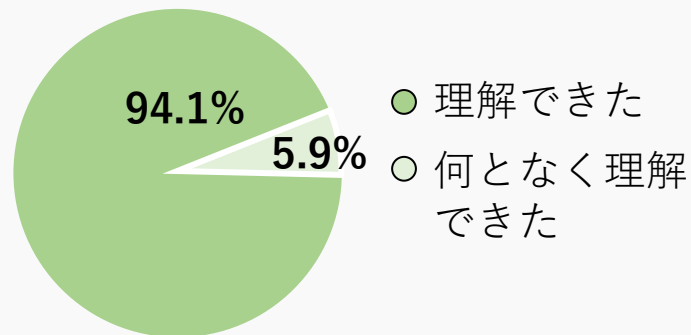


想定外のリスク

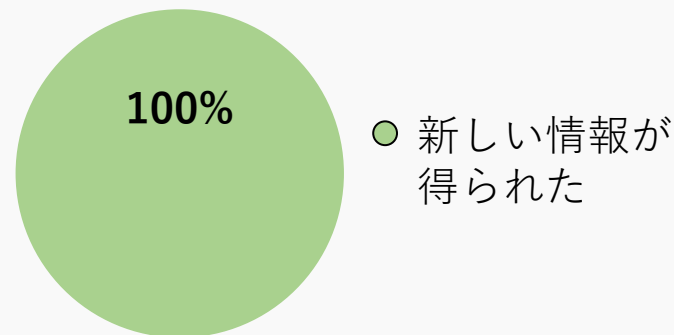
- 演習現場で、ハブが目撃された
- ▶ 作業環境を確認する役割や
ハブ対策グッズを追加して
安全対策

事後アンケート

□ 発生時の対応について



□ 情報の取得について



地域の特性を考慮しながら対応計画を具体化し、
連携体制強化の取組を継続していく